

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

## 【1. ヒューマニズム(倫理)】

領域— 一般目標— 到達目標	一般目標	到達目標	GLL レベル
1	1-1-1	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる	1
2	1-1-2	医療の担い手として、社会のニーズを把握できる	3
3	1-1-3	医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる	3
4	1-1-4	医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案できる	5
5	1-1-5	医療倫理の歴史(ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓いなど)を概説できる	1
6	1-1-6	医療にかかわる倫理的問題を列挙できる	2
7	1-1-7	医療に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる	4
8	1-1-8	薬剤師行動規範を概説できる	1
9	1-1-9	薬剤師綱領を概説できる	1
10	1-1-10	1. 生命の尊厳を認識するために、医療人としての倫理観と責任感を身に付ける	4
11	1-1-11	薬剤師に係わる倫理的問題について討議できる	4
12	1-1-12	医療法第1条の2を概説できる	1
13	1-1-13	薬剤師法第1条について概説できる	1
14	1-1-14	人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議できる	4
15	1-1-15	環境に配慮する意義を考察し、討議できる	4
16	1-1-16	自らの体験を通して、生命の尊厳と医療のかかわりについて討議できる	5
17	1-1-17	救命救急に薬剤師が関わる意義を説明できる	5
18	1-1-18	死にかかわる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)について討議できる	5
19	1-1-19	予防、治療、延命、QOLについて説明できる	5
20	1-1-20	誕生にかかわる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる	5
21	1-1-21	医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植、再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる	5
22	1-2-1	医療にかかわる諸問題から、自ら課題を見だし、それを解決する能力を醸成する	5
23	1-2-2	「薬剤師の接遇マニュアル」を概説できる	1
24	1-2-3	「薬剤師の接遇マニュアル」に基づいて行動できる	3
25	1-2-4	「対面話法例示集」を概説できる	1
26	1-2-5	「対面話法例示集」に基づいて行動できる	4
27	1-2-6	チームワークの重要性を例示して説明できる	1
28	1-2-7	2. 患者中心の医療を実現するために、チーム医療の一員としての基本的な知識・技能・態度を修得する	4
29	1-2-8	薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他職種に助言などを求めるなどの処置ができる	4
30	1-2-9	医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携の重要性を討議できる	4
31	1-2-10	医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携を実践できる	5
32	1-2-11	他職種と連携を取り、協調的態で役割を実践できる	5
33	1-3-1	言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる	3
34	1-3-2	相手の立場、文化、習慣が異なることを理解し、コミュニケーションのあり方に配慮できる	5
35	1-3-3	インフォームドコンセントの定義と必要性を説明できる	2
36	1-3-4	ファーマシューティカルケアについて説明できる	2
37	1-3-5	ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる	4
38	1-3-6	患者の心理状態を把握し、配慮できる	3
39	1-3-7	相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できる	5
40	1-3-8	不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議できる	2
41	1-3-9	ターミナルケアにおける薬剤師の役割について説明できる	4
42	1-3-10	ホスピスなどの施設の意義について説明できる	3
43	1-3-11	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる	5
44	1-3-12	ホスピスなどの施設で薬剤師の役割を実践できる	5
45	1-3-13	疼痛緩和について説明できる	3
46	1-3-14	疼痛緩和ケアについて実践できる	5
47	1-3-15	末期患者の精神的ケアについて説明できる	4
48	1-3-16	末期患者の精神的ケアについて実践できる	5
49	1-3-17	認知症のケアについて説明できる	4
50	1-3-18	認知症のケアについて実践できる	5
51	1-3-19	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる	4
52	1-3-20	病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる	5
53	1-3-21	患者および家族の心理状態を把握し、配慮できる	5
54	1-3-22	患者やその家族のもつ価値観が多様であることを認識し、総合的に実践できる	5
55	1-3-23	臨床心理学の必要性について説明できる	4
56	1-4-1	交流分析の必要性について説明できる	4
57	1-4-2	家族力学について理解し、実践できる	5
58	1-4-3	4. 患者が自分の疾患に正面から向き合い、治療に積極的に取り組めるようサポートするための知識・技能・態度を身に付ける	3
59	1-4-4	病名を宣告された患者や家族の心理状態について配慮できる	3
60	1-4-5	簡易的なカウンセリングスキルについて説明できる	4
		患者やその家族の話を傾聴することができる	3
		患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握することができる	5
		患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる	5

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

## 【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

本領域では、到達目標数が多いことから、小領域を設けました。

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLレベル
1	2-1-1	医薬品情報	様々な情報源とその特徴について説明できる	1
2	2-1-2	医薬品情報	情報収集に必要な設備について説明できる	1
3	2-1-3	医薬品情報	情報通信機器を利用した文献検索の手順を列挙できる	1
4	2-1-4	医薬品情報	情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる	1
5	2-1-5	医薬品情報	情報通信機器を活用した医療および医薬品情報を適切に収集できる	5
6	2-1-6	医薬品情報	当該医薬品の最新の添付文書およびインタビューフォームが収集できる	1
7	2-1-7	医薬品情報	当該医薬品および類縁化合物に関する臨床報告を収集できる	4
8	2-1-8	医薬品情報	医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる	1
9	2-1-9	医薬品情報	一般用医薬品に配合されている薬物を調べ、その薬効を説明できる	2
10	2-1-10	医薬品情報	当該医薬品の費用対治療効果比を調べて説明できる	5
11	2-1-11	医薬品情報	医療情報の信頼性やエビデンスレベルについて説明できる	2
12	2-1-12	医薬品情報	医療情報の信頼性やエビデンスレベルを検証できる	5
13	2-1-13	医薬品情報	質の高い医療情報に基づいて適切な薬剤を提案できる	5
14	2-1-14	医薬品情報	医薬品の臨床報告(和文)の内容を簡潔に説明できる	2
15	2-1-15	医薬品情報	医薬品の臨床報告(英文)の内容を簡潔に説明できる	5
16	2-1-16	医薬品情報	学術および医学専門用語の意味を調べて説明できる	2
17	2-1-17	医療統計	2つの変量の相関関係を定量的に説明できる	5
18	2-1-18	医療統計	基本的な統計学を理解し、平均値と標準偏差の意味を説明できる	4
19	2-1-19	医療統計	統計手法を用いる2つの平均値の有意差検定について詳しく説明できる	5
20	2-1-20	医療統計	分散分析と多重比較について詳しく説明できる	5
21	2-1-21	医療統計	正規分布を前提としない検定法について説明できる	5
22	2-1-22	医薬品情報	添付文書やインタビューフォームの記載事項を、種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる	5
23	2-1-23	医薬品情報	MRの提供情報を種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる	5
24	2-1-24	医薬品情報	医薬品情報に対し、目的に応じた適切な取捨選択が行える	5
25	2-1-25	医薬品情報	複数の学術資料を比較し、医薬品情報の信頼性や対立情報の有無を検証できる	5
26	2-1-26	医薬品情報	体系的に収集・整理した医薬品情報の提供を、他の医療スタッフに対し適切に行える	5
27	2-1-27	医薬品情報	体系的に収集・整理した医薬品情報を勉強会や学術集会以て説明できる	5
28	2-1-28	医薬品情報	医薬品の市販後(市販直後)調査の手順を説明できる	3
29	2-1-29	医薬品情報	患者の求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる	3
30	2-1-30	医薬品情報	医療スタッフの求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる	3
31	2-1-31	医薬品情報	直面する医薬品の調剤学的、製剤学的問題点について改善方法を提案できる	5
32	2-1-32	医薬品情報	医薬品の調剤学的、製剤学的問題点の解決法を提案できる	5
33	2-1-33	医薬品情報	直面する医薬品の生物薬剤学的、薬理学的問題点について改善方法を提案できる	5
34	2-1-34	感染対策	無菌操作と無菌製剤について説明できる	4
35	2-1-35	感染対策	無菌操作と無菌製剤を適切に行える	5
36	2-1-36	医薬品情報	保険診療における医薬品の保険適用について説明できる	3
37	2-1-37	医薬品情報	添付文書の併用注意に関する情報の取捨選択が、その重要度に応じて行える	3
38	2-1-38	感染対策	院内感染の標準的予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる	4
39	2-1-39	感染対策	院内外および地域における感染事例の情報を医療スタッフに適切に説明できる	4
40	2-1-40	感染対策	代表的な消毒薬を列挙できる	1
41	2-1-41	感染対策	代表的な消毒薬の使用法を説明できる	3
42	2-1-42	感染対策	消毒対象に応じた適切な消毒薬の選択と消毒方法を提案できる	5
43	2-1-43	感染対策	病原体の主な感染源と感染経路を列挙できる	3
44	2-1-44	感染対策	院内感染の感染経路別対策について説明できる	4
45	2-1-45	医薬品情報	未知(未経験)の症例に対し、知識と経験と最新の医薬品情報に基づいて、具体的方策を提案できる	5
46	2-1-46	PK/PD	母集団薬物動態学の概念と応用について説明できる	4
47	2-1-47	PK/PD	母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる	5
48	2-2-1	医薬品情報	一般名に対応する後発医薬品について列挙できる	1
49	2-2-2	医薬品情報	後発医薬品の選択を明確な理由に基づいて行える	3
50	2-2-3	循環器	心臓および血管系における代表的な疾患を列挙できる	2
51	2-2-4	循環器	不整脈の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
52	2-2-5	循環器	不整脈の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
53	2-2-6	循環器	不整脈に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
54	2-2-7	循環器	心不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
55	2-2-8	循環器	心不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
56	2-2-9	循環器	心不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
57	2-2-10	循環器	虚血性心疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
58	2-2-11	循環器	虚血性心疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
59	2-2-12	循環器	虚血性心疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
60	2-2-13	循環器	高血圧の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
61	2-2-14	循環器	高血圧の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

## 【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

本領域では、到達目標数が多いことから、小領域を設けました。

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLレベル
62	2-2-15	循環器	高血圧に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
63	2-2-16	消化器	消化器系(胃・十二指腸、小腸・大腸、肝臓・胆道、膵臓)における代表的な疾患を列挙できる	2
64	2-2-17	消化器	消化性潰瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
65	2-2-18	消化器	消化性潰瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
66	2-2-19	消化器	消化性潰瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
67	2-2-20	消化器	炎症性腸疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
68	2-2-21	消化器	炎症性腸疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
69	2-2-22	消化器	炎症性腸疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
70	2-2-23	消化器	腸炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
71	2-2-24	消化器	腸炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
72	2-2-25	消化器	腸炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
73	2-2-26	内分泌	肝炎・肝硬変の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
74	2-2-27	内分泌	肝炎・肝硬変の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
75	2-2-28	内分泌	肝炎・肝硬変に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
76	2-2-29	内分泌	膵炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
77	2-2-30	内分泌	膵炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
78	2-2-31	内分泌	膵炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
79	2-2-32	泌尿器	腎臓および尿路における代表的な疾患を列挙できる	2
80	2-2-33	泌尿器	腎不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
81	2-2-34	泌尿器	腎不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
82	2-2-35	泌尿器	腎不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
83	2-2-36	泌尿器	ネフローゼの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
84	2-2-37	泌尿器	ネフローゼの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
85	2-2-38	泌尿器	ネフローゼに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
86	2-2-39	生殖器	生殖器に関する代表的な疾患を列挙できる	2
87	2-2-40	呼吸器	肺および気道における代表的な疾患を列挙できる	2
88	2-2-41	呼吸器	喘息および肺気腫の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
89	2-2-42	呼吸器	喘息および肺気腫の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
90	2-2-43	呼吸器	喘息に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
91	2-2-44	内分泌	ホルモン産生臓器にかかる代表的な疾患を列挙できる	2
92	2-2-45	内分泌	脳下垂体に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
93	2-2-46	内分泌	脳下垂体に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
94	2-2-47	内分泌	甲状腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
95	2-2-48	内分泌	甲状腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
96	2-2-49	内分泌	性腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
97	2-2-50	内分泌	性腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
98	2-2-51	内分泌	副腎に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
99	2-2-52	内分泌	副腎に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
100	2-2-53	内分泌	糖尿病とその合併症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
101	2-2-54	内分泌	糖尿病とその合併症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
102	2-2-55	内分泌	糖尿病とその合併症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
103	2-2-56	内分泌	脂質代謝異常症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
104	2-2-57	内分泌	脂質代謝異常症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
105	2-2-58	内分泌	脂質代謝異常症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
106	2-2-59	内分泌	高尿酸血症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
107	2-2-60	内分泌	高尿酸血症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
108	2-2-61	内分泌	高尿酸血症と痛風に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
109	2-2-62	神経	神経および筋に関する代表的な疾患を列挙できる	2
110	2-2-63	神経	神経および筋に関する代表的な治療薬を列挙できる	2
111	2-2-64	神経	神経および筋に関する代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
112	2-2-65	神経	脳血管疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
113	2-2-66	神経	脳血管疾患の代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
114	2-2-67	神経	てんかんの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
115	2-2-68	神経	てんかんの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
116	2-2-69	神経	てんかんに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
117	2-2-70	精神	代表的な精神疾患を列挙できる	2
118	2-2-71	精神	統合失調症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
119	2-2-72	精神	統合失調症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
120	2-2-73	精神	統合失調症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
121	2-2-74	精神	うつ病、躁うつ病の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
122	2-2-75	精神	うつ病、躁うつ病の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

## 【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

本領域では、到達目標数が多いことから、小領域を設けました。

領域- 一般目 標-到 達目標	一般目標	小領域	到達目標	CL レベル
123	2-2-76	精神	うつ病、躁うつ病に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
124	2-2-77	皮膚・感覚	耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
125	2-2-78	皮膚・感覚	耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
126	2-2-79	皮膚・感覚	皮膚疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
127	2-2-80	皮膚・感覚	皮膚疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
128	2-2-81	皮膚・感覚	眼に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
129	2-2-82	皮膚・感覚	眼に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
130	2-2-83	整形	骨、関節に関する代表的な疾患を列挙できる	2
131	2-2-84	整形	骨粗鬆症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
132	2-2-85	整形	骨粗鬆症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
133	2-2-86	整形	骨粗鬆症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
134	2-2-87	整形	関節リウマチの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
135	2-2-88	整形	関節リウマチの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
136	2-2-89	整形	関節リウマチに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
137	2-2-90	免疫系	代表的なアレルギーおよび免疫に関する疾患を列挙できる	2
138	2-2-91	免疫系	アナフィラキシー・ショックの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
139	2-2-92	免疫系	アナフィラキシー・ショックの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
140	2-2-93	免疫系	アナフィラキシー・ショックに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
141	2-2-94	免疫系	後天性免疫不全症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
142	2-2-95	免疫系	後天性免疫不全症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
143	2-2-96	免疫系	後天性免疫不全症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案	5
144	2-2-97	免疫系	移植に関連して使用される薬物について列挙できる	2
145	2-2-98	悪性腫瘍	癌性疼痛に対して使用される薬物について列挙できる	2
146	2-2-99	感染症	主な感染症の病態と原因を説明できる	3
147	2-2-100	感染症	代表的な抗菌薬を体系的に分類し、抗菌スペクトルと作用機序を説明できる	3
148	2-2-101	感染症	薬剤耐性獲得の仕組みについて説明できる	4
149	2-2-102	感染症	代表的な抗真菌薬の作用機序を説明できる	3
150	2-2-103	感染症	代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる	3
151	2-2-104	悪性腫瘍	臓器別悪性腫瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
152	2-2-105	悪性腫瘍	臓器別悪性腫瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
153	2-2-106	悪性腫瘍	臓器別悪性腫瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案で	5
154	2-2-107	悪性腫瘍	代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる	2
155	2-2-108	悪性腫瘍	代表的な抗悪性腫瘍薬の作用機序と臨床応用を詳しく説明できる	5
156	2-2-109	栄養	栄養障害の病態生理と代表的な治療(対応)法を列挙できる	2
157	2-2-110	栄養	経腸栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる	4
158	2-2-111	栄養	経腸栄養療法の管理と合併症について説明できる	4
159	2-2-112	栄養	静脈栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる	4
160	2-2-113	栄養	静脈栄養療法の管理と合併症について説明できる	4
161	2-2-114	栄養	在宅栄養療法について説明できる	4
162	2-2-115	皮膚・感覚	褥瘡の治療法について説明できる	4
163	2-2-116	皮膚・感覚	褥瘡の程度に応じて治療法を提案できる	5
164	2-2-117	漢方・漢方	陰陽五行説などの漢方の基本理論を簡単に説明できる	2
165	2-2-118	漢方・漢方	代表的な漢方方剤の構成とその作用を説明できる	4
166	2-2-119	医薬品情報	EBMの基本概念と有用性について説明できる	4
167	2-2-120	PK/ PD	薬物の用量と作用の関係について説明できる	3
168	2-2-121	PK/ PD	薬物の体内動態と薬効の関係について説明できる	3
169	2-2-122	PK/ PD	薬物の代表的な投与経路について、それぞれの特徴を説明できる	3
170	2-2-123	PK/ PD	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる	1
171	2-2-124	PK/ PD	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子の作用機序について説明できる	4
172	2-2-125	PK/ PD	薬物の脳移行性と脳血液関門の特徴を説明できる	4
173	2-2-126	PK/ PD	薬物の胎児移行性について説明できる	1
174	2-2-127	PK/ PD	薬物と血漿タンパク質との結合と薬効の関係について説明できる	4
175	2-2-128	PK/ PD	薬物と血漿タンパク質との結合と薬物の組織移行性の関係について説明できる	4
176	2-2-129	PK/ PD	薬物の代謝様式と主要な代謝酵素について説明できる	4
177	2-2-130	PK/ PD	薬物の主要排泄経路と排泄様式について説明できる	1
178	2-2-131	PK/ PD	薬物の初回通過効果について説明できる	1
179	2-2-132	PK/ PD	薬物の初回通過効果の変動因子について詳しく説明できる	5
180	2-2-133	PK/ PD	薬物の肝クリアランスについて説明できる	4
181	2-2-134	PK/ PD	薬物の腎クリアランスについて説明できる	4
182	2-2-135	PK/ PD	薬物の血中濃度推移と全身クリアランス、分布容積について説明できる	4
183	2-2-136	PK/ PD	反復投与時の薬物血中濃度推移について説明できる	4
184	2-2-137	PK/ PD	TDMの意義について説明できる	3

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

## 【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

本領域では、到達目標数が多いことから、小領域を設けました。

領域-一般目標-到達目標	一般目標	小領域	到達目標	CLレベル	
185 2-2-138	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	PK/PD	TDMのデータに基づいて適正な投与方法について提案できる	5	
186 2-2-139		PK/PD	薬物の体内動態と作用発現に影響を与える遺伝的素因について説明できる	4	
187 2-2-140		小児	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1	
188 2-2-141		小児	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3	
189 2-2-142		小児	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる	5	
190 2-2-143		高齢者	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1	
191 2-2-144		高齢者	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3	
192 2-2-145		妊婦・授乳	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1	
193 2-2-146		妊婦・授乳	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3	
194 2-2-147		妊婦・授乳	妊婦に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる	5	
195 2-2-148		妊婦・授乳	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1	
196 2-2-149		妊婦・授乳	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3	
197 2-2-150		泌尿器	腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる	2	
198 2-2-151		泌尿器	腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる	4	
199 2-2-152		内分泌	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる	2	
200 2-2-153		内分泌	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる	4	
201 2-2-154		循環器	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる	2	
202 2-2-155		循環器	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる	4	
203 2-2-156		薬学的ケア	期待する効果が現れない、もしくは不十分である場合の対処法について提案できる	5	
204 2-2-157		薬学的ケア	医薬品適正使用の観点から、未知(未経験)の症例に対する薬物使用に関する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる	5	
205 2-3-1		3. 患者の利益を最大限守るために、重篤な副作用や相互作用について理解する	薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、不適切な服薬状況を見出せる	3
206 2-3-2			薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、栄養障害の兆候を見出せる	4
207 2-3-3			薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、不適切な薬理効果を見出せる	4
208 2-3-4			薬学的観察	患者とのコミュニケーションを通して、副作用発現の兆候を見出せる	4
209 2-3-5	薬学的観察		患者とのコミュニケーションを通して、薬物相互作用の兆候を見出せる	4	
210 2-3-6	薬学的観察		診療記録や看護記録、検査所見などから、薬効や副作用、相互作用に関する情報を収集できる	3	
211 2-3-7	薬学的観察		医療スタッフが日常使用している専門用語を正確に説明できる	3	
212 2-3-8	薬学的観察		医療スタッフとの情報交換を通じ、重篤な副作用の初期症状を見出せる	4	
213 2-3-9	薬学的観察		医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の薬効に関する学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5	
214 2-3-10	薬学的観察		医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発現の可能性を見出せる	4	
215 2-3-11	薬学的観察		医療スタッフとの情報交換を通じ、副作用を見出せる	4	
216 2-3-12	薬学的観察		医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5	
217 2-3-13	PK/PD		医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用の可能性を見出せる	4	
218 2-3-14	PK/PD		医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用を見出せる	4	
219 2-3-15	PK/PD		医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5	
220 2-3-16	副作用		心臓・血管系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
221 2-3-17	副作用		消化器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
222 2-3-18	副作用		腎臓・尿路系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
223 2-3-19	副作用		精神神経疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
224 2-3-20	副作用		代謝性疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
225 2-3-21	副作用		産科婦人科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
226 2-3-22	副作用		小児科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
227 2-3-23	副作用		老年科で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
228 2-3-24	副作用		外科・整形形成外科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
229 2-3-25	副作用		抗菌薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる	3	
230 2-3-26	副作用		抗悪性腫瘍薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる	4	
231 2-3-27	副作用		代表的な外用薬に関する副作用とその兆候を説明できる	3	
232 2-3-28	副作用		代表的な漢方薬・漢方製剤に関する副作用とその兆候を説明できる	4	
233 2-3-29	副作用		代表的な医薬品の適用症例を列挙できる	2	
234 2-3-30	副作用		代表的な漢方薬・漢方製剤の用法・用量を列挙できる	2	
235 2-3-31	薬学的ケア		不適切な処方について、その理由を説明できる	2	
236 2-3-32	薬学的ケア		不適切な処方について、適切な事例もしくは代替案を提案できる	5	
237 2-3-33	副作用		相互作用および副作用の回避策を列挙できる	4	
238 2-3-34	副作用		相互作用および副作用の回避策を、過去の事例や資料、および患者の状態を勘案して提案できる	5	

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

### 【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

本領域では、到達目標数が多いことから、小領域を設けました。

領域- 一般目 標-到 達目標	一般目標	小領域	到達目標	CL レベ ル
239 2-3-35	用や相互 作用につ いて理解 する	副作用	医薬品の有害作用について、患者の心情に配慮して説明できる。	5
240 2-3-36		副作用	医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用に関する報告が行える	4
241 2-3-37		副作用	医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用を適切に説明できる	5
242 2-3-38		副作用	副作用および薬物相互作用の疑いのある事例について、公的機関への報告が行える	4
243 2-3-39		副作用	相互作用と副作用の観点から、未知(未経験)の症例に対する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる	5

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

## 【3. 地域住民の健康増進(薬物乱用防止、セルフメディケーション)】

領域一般目標-到達目標	一般目標	到達目標	GLLレベル
1 3-1-1	1. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、疾病とその予防に対する基本的な知識・技能・態度を身につける	セルフメディケーションの必要性を適切に説明できる	1
2 3-1-2		セルフメディケーションのための健康食品を適切に提案できる	3
3 3-1-3		一般用医薬品の第一類、二類、三類について概説できる	1
4 3-1-4		セルフメディケーションのための一般用医薬品を適切に提案できる	3
5 3-1-5		飲酒と喫煙が健康に及ぼす影響について説明できる	2
6 3-1-6		禁煙指導ができる	5
7 3-1-7		食生活が健康に及ぼす影響を説明できる	3
8 3-1-8		食育の必要性を説明できる	3
9 3-1-9		健康食品による有害作用を説明できる	3
10 3-1-10		食品及び健康食品と医薬品の相互作用を説明できる	3
11 3-1-11		健康食品の最新情報を収集できる	5
12 3-1-12		病気の予防について適切に助言できる	5
13 3-1-13		顧客に対してわかりやすい言葉、表現を用い説明できる	3
14 3-1-14		顧客の要望を的確に把握し、必要とする情報を提供できる	5
15 3-1-15		医師への受診勧奨を適切に行うことができる	5
16 3-2-1	2. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、薬剤師としての地域保健活動を身につける	麻薬や覚醒剤が人体に及ぼす影響について説明できる	2
17 3-2-2		学校薬剤師の役割と活動を説明できる	2
18 3-2-3		学校薬剤師として活動できる	5
19 3-2-4		訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務について説明できる	2
20 3-2-5		訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を行うことができる	5
21 3-2-6		ドーピングとその有害作用について説明できる	3
22 3-2-7		地域におけるスポーツファーマシストの役割と活動を説明できる	3
23 3-2-8		地域で麻薬や覚醒剤などの薬物乱用防止のための活動ができる	5
24 3-2-9		地域住民に対し医薬品の適正使用について啓発活動ができる	5
25 3-2-10		話題性のある薬物についてわかりやすく説明できる	3
26 3-2-11		日常生活における衛生管理の概念を説明できる	3
27 3-2-12		日用品に含まれる化学物質の危険性を説明できる	3
28 3-2-13		日用品に含まれる化学物質の危険性から回避するための方法を提案できる	5
29 3-2-14		誤飲や誤食による中毒に対して適切に助言できる	5
30 3-3-1	3. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、薬剤師として地域福祉に貢献するための知識・技能・態度を身につける	住民の家庭環境を把握し、適切に行動できる	5
31 3-3-2		居宅老人の介護状況を把握し、適切に対応できる	5
32 3-3-3		保健福祉活動の中で他職種と連携できる	5
33 3-4-1	4. 災害緊急時に対応するために、薬剤師として必要な知識・技能・態度を身につける	心肺停止状態に対応するための基本的な知識を概説できる	2
34 3-4-2		心肺停止状態を判断でき、自動体外式除細動器を適切に取り扱うことができる	4
35 3-4-3		災害時における薬剤師の役割について説明できる	4
36 3-4-4		災害発生時に適切な初期行動をとることができる	5
37 3-4-5		災害時に備えた適切な患者指導ができる	5
38 3-4-6		災害・緊急時に医薬品の供給と管理について指導できる	5

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

### 【4. リスクマネジメント】

領域— 一般目標— 到達目標	一般目標	到達目標	GLレ ベル
1 4-1-1	1. 国民に安心・安全な医療を提供するために、必要な医療安全対策の方法を身につける	医療過誤(事故)のレベルの分類が説明できる	2
2 4-1-2		「ヒヤリハット事例」を報告できる	1
3 4-1-3		医療安全に関する重要な情報を収集できる	3
4 4-1-4		医薬品がもつ危険性について、説明できる	3
5 4-1-5		過去に起こった医療過誤(事故)事例について、内容を説明できる	4
6 4-1-6		薬剤師が取り組む医療安全対策について、意義を理解し、要点を説明できる	5
7 4-2-1	2. 医療の安全性を高めるために、医療事故防止の対策を修得する	医療過誤(事故)発見時に適切に報告できる	2
8 4-2-2		医療過誤(事故)報告を分析し、その原因が解明できる	5
9 4-2-3		具体的な医療過誤(事故)防止対策が提案できる	5
10 4-2-4		実施中の医療過誤(事故)防止対策が評価できる	5
11 4-3-1	3. 国民に安心・安全な医療を提供するために、医療過誤(事故)発生時における、適切な対処方法を身につける	医療過誤(事故)発生時の対応の流れについて説明できる	4
12 4-3-2		医療過誤(事故)の発見時に必要部署に報告できる	3
13 4-3-3		医療過誤(事故)発見時に適切に患者対応できる	5
14 4-3-4		医療過誤(事故)解決のため、適切に対処(行動)できる	5
15 4-3-5		メンタル面のフォローを含め医療過誤(事故)を起こした人に適切に対応できる	5
16 4-4-1	4. 医療の安全性をより高めるために、リスク管理を行う習慣を身につける	医療安全管理指針と業務手順書を理解し、遵守して業務を遂行できる	2
17 4-4-2		ヒューマンエラーおよびメカニカルエラーが不可避であることを認識し、それぞれの危険性について列挙できる	3
18 4-4-3		医療事故の起こりやすい因子について、詳しく説明できる	5
19 4-4-4		「薬局・薬剤師のための調剤事故防止マニュアル」を理解し、説明できる	3
20 4-4-5		現場に即した医療事故防止のための業務手順書を作成できる	5

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

### 【5. 法律制度の遵守】

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	一般目標	到達目標	CLLレベル
1 5-1-1	薬剤師の社会的責 務を果たすために、 薬剤師を取り巻く法 律・制度を理解する	薬機法の重要な項目を列挙できる	2
2 5-1-2		薬機法の重要な項目を説明できる	3
3 5-1-3		薬剤師法の重要な項目を列挙できる	2
4 5-1-4		薬剤師法の重要な項目を説明できる	3
5 5-1-5		薬剤師に関連する法令の構成を説明できる	3
6 5-1-6		麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法等を説明できる	1
7 5-1-7		麻薬及び向精神薬取締法覚せい剤取締法等に基づき、適切な取り扱い・管理が実践できる	3
8 5-1-8		個人情報保護法について説明できる	1
9 5-1-9		薬剤師の基本的責任を逸脱した場合の罰則法律を説明できる	3
10 5-1-10		医療法の重要項目を列挙できる	3
11 5-1-11		医療法の重要項目を説明できる	5
12 5-1-12		医師法の重要項目を列挙できる	5
13 5-1-13		医師法の重要項目について説明できる	5
14 5-1-14		健康保険法の重要項目を列挙できる	5
15 5-1-15		健康保険法の重要項目を説明できる	5
16 5-1-16		保険医療機関及び保険医療養担当規則を説明できる	3
17 5-1-17		保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則を説明できる	3
18 5-1-18		社会保障制度・医療保険制度を説明できる	5
19 5-1-19		介護保険法の重要項目について説明できる	5
20 5-1-20		調剤過誤発生時の法的責任について説明できる	4
21 5-1-21		処方せん偽造者及び薬剤師の間われる可能性がある責任について具体的法律を説明できる	5
22 5-1-22		薬事関連法規に基づき相談に対応できる	5

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

## CL LEVEL1

	領域-一般目標-到達目標	到達目標(30項目)
1	1-1-1	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2	1-1-5	医療倫理の歴史(ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓いなど)を概説できる
3	1-1-8	薬剤師行動規範を概説できる
4	1-1-9	薬剤師綱領を概説できる
5	1-1-11	医療法第1条の2を概説できる
6	1-1-12	薬剤師法第1条について概説できる
7	1-2-1	「薬剤師の接遇マニュアル」を概説できる
8	1-2-3	「対面話法例示集」を概説できる
9	1-2-5	チームワークの重要性を例示して説明できる
10	2-1-1	様々な情報源とその特徴について説明できる
11	2-1-2	情報収集に必要な設備について説明できる
12	2-1-3	情報通信機器を利用した文献検索の手順を列挙できる
13	2-1-4	情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる
14	2-1-6	当該医薬品の最新の添付文書およびインタビューフォームが収集できる
15	2-1-8	医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる
16	2-1-40	代表的な消毒薬を列挙できる
17	2-2-1	一般名に対応する後発医薬品について列挙できる
18	2-2-123	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる
19	2-2-126	薬物の胎児移行性について説明できる
20	2-2-130	薬物の主要排泄経路と排泄様式について説明できる
21	2-2-131	薬物の初回通過効果について説明できる
22	2-2-140	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
23	2-2-143	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
24	2-2-145	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
25	2-2-148	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
26	3-1-1	セルフメディケーションの必要性を適切に説明できる
27	3-1-3	一般用医薬品の第一類、二類、三類について概説できる
28	4-1-2	「ヒヤリハット事例」を報告できる
29	5-1-6	麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法等を説明できる
30	5-1-8	個人情報保護法について説明できる

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

### CL LEVEL2

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域 一般目標 到達目標	到達目標(71項目)
1	1-1-6 医療にかかわる倫理的問題を列挙できる
2	1-3-1 インフォームドコンセントの定義と必要性を説明できる
3	1-3-2 ファーマシューティカルケアについて説明できる
4	1-3-6 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議できる
5	2-1-9 一般用医薬品に配合されている薬物を調べ、その薬効を説明できる
6	2-1-11 医療情報の信頼性やエビデンスレベルについて説明できる
7	2-1-14 医薬品の臨床報告(和文)の内容を簡潔に説明できる
8	2-1-16 学術および医学専門用語の意味を調べて説明できる
9	2-2-3 心臓および血管系における代表的な疾患を列挙できる
10	2-2-4 不整脈の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
11	2-2-7 心不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
12	2-2-10 虚血性心疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
13	2-2-13 高血圧の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
14	2-2-16 消化器系(胃・十二指腸、小腸・大腸、肝臓・胆道、膵臓)における代表的な疾患を列挙できる
15	2-2-17 消化性潰瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
16	2-2-20 炎症性腸疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
17	2-2-23 腸炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
18	2-2-26 肝炎・肝硬変の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
19	2-2-29 膵炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
20	2-2-32 腎臓および尿路における代表的な疾患を列挙できる
21	2-2-33 腎不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
22	2-2-36 ネフローゼの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
23	2-2-39 生殖器に関する代表的な疾患を列挙できる
24	2-2-40 肺および気道における代表的な疾患を列挙できる
25	2-2-41 喘息および肺気腫の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
26	2-2-44 ホルモン産生臓器にかかる代表的な疾患を列挙できる
27	2-2-45 脳下垂体に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
28	2-2-47 甲状腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
29	2-2-49 性腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
30	2-2-51 副腎に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
31	2-2-53 糖尿病とその合併症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
32	2-2-56 脂質代謝異常症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
33	2-2-59 高尿酸血症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
34	2-2-62 神経および筋に関する代表的な疾患を列挙できる
35	2-2-63 神経および筋に関する代表的な治療薬を列挙できる
36	2-2-65 脳血管疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
37	2-2-67 てんかんの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
38	2-2-70 代表的な精神疾患を列挙できる
39	2-2-71 統合失調症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
40	2-2-74 うつ病、躁うつ病の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
41	2-2-77 耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
42	2-2-79 皮膚疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
43	2-2-81 眼に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
44	2-2-83 骨、関節に関する代表的な疾患を列挙できる
45	2-2-84 骨粗鬆症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
46	2-2-87 関節リウマチの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
47	2-2-90 代表的なアレルギーおよび免疫に関する疾患を列挙できる
48	2-2-91 アナフィラキシー・ショックの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
49	2-2-94 後天性免疫不全症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
50	2-2-97 移植に関連して使用される薬物について列挙できる

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

**CL LEVEL2** ※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域	一般目標-到達目標	到達目標(71項目)
51	2-2-98	癌性疼痛に対して使用される薬物について列挙できる
52	2-2-104	臓器別悪性腫瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
53	2-2-107	代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる
54	2-2-109	栄養障害の病態生理と代表的な治療(対応)法を列挙できる
55	2-2-117	陰陽五行説などの漢方の基本理論を簡単に説明できる
56	2-2-150	腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる
57	2-2-152	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる
58	2-2-154	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる
59	2-3-29	代表的な医薬品の適用症例を列挙できる
60	2-3-30	代表的な漢方薬・漢方製剤の用法・用量を列挙できる
61	2-3-31	不適切な処方について、その理由を説明できる
62	3-1-5	飲酒と喫煙が健康に及ぼす影響について説明できる
63	3-2-1	麻薬や覚醒剤が人体に及ぼす影響について説明できる
64	3-2-2	学校薬剤師の役割と活動を説明できる
65	3-2-4	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務について説明できる
66	3-4-1	心肺停止状態に対応するための基本的な知識を概説できる
67	4-1-1	医療過誤(事故)のレベルの分類が説明できる
68	4-2-1	医療過誤(事故)発見時に適切に報告できる
69	4-4-1	医療安全管理指針と業務手順書を理解し、遵守して業務を遂行できる
70	5-1-1	薬機法の重要な項目を列挙できる
71	5-1-3	薬剤師法の重要な項目を列挙できる

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLLレベル別

### CL LEVEL3

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	到達目標(64項目)
1	1-1-2 医療の担い手として、社会のニーズを把握できる
2	1-1-3 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる
3	1-2-2 「薬剤師の接遇マニュアル」に基づいて行動できる
4	1-2-10 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる
5	1-3-4 患者の心理状態を把握し、配慮できる
6	1-3-8 ホスピスなどの施設の意義について説明できる
7	1-3-11 疼痛緩和について説明できる
8	1-4-1 病名を宣告された患者や家族の心理状態について配慮できる
9	1-4-3 患者やその家族の話を傾聴することができる
10	2-1-28 医薬品の市販後(市販直後)調査の手順を説明できる
11	2-1-29 患者の求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる
12	2-1-30 医療スタッフの求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる
13	2-1-36 保険診療における医薬品の保険適用について説明できる
14	2-1-37 添付文書の併用注意に関する情報の取捨選択が、その重要度に応じて行える
15	2-1-41 代表的な消毒薬の使用法を説明できる
16	2-1-43 病原体の主な感染源と感染経路を列挙できる
17	2-2-2 後発医薬品の選択を明確な理由に基づいて行える
18	2-2-78 耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
19	2-2-80 皮膚疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
20	2-2-82 眼に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
21	2-2-85 骨粗鬆症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
22	2-2-88 関節リウマチの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
23	2-2-99 主な感染症の病態と原因を説明できる
24	2-2-100 代表的な抗菌薬を体系的に分類し、抗菌スペクトルと作用機序を説明できる
25	2-2-102 代表的な抗真菌薬の作用機序を説明できる
26	2-2-103 代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる
27	2-2-120 薬物の用量と作用の関係について説明できる
28	2-2-121 薬物の体内動態と薬効の関係について説明できる
29	2-2-122 薬物の代表的な投与経路について、それぞれの特徴を説明できる
30	2-2-137 TDMの意義について説明できる
31	2-2-141 新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
32	2-2-144 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
33	2-2-146 妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
34	2-2-149 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
35	2-3-1 患者とのコミュニケーションを通して、不適切な服薬状況を見出せる
36	2-3-6 診療記録や看護記録、検査所見などから、薬効や副作用、相互作用に関する情報を収集できる
37	2-3-7 医療スタッフが日常使用している専門用語を正確に説明できる
38	2-3-25 抗菌薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる
39	2-3-27 代表的な外用薬に関する副作用とその兆候を説明できる
40	3-1-2 セルフメディケーションのための健康食品を適切に提案できる
41	3-1-4 セルフメディケーションのための一般用医薬品を適切に提案できる
42	3-1-7 食生活が健康に及ぼす影響を説明できる
43	3-1-8 食育の必要性を説明できる
44	3-1-9 健康食品による有害作用を説明できる
45	3-1-10 食品及び健康食品と医薬品の相互作用を説明できる
46	3-1-13 顧客に対してわかりやすい言葉、表現を用い説明できる
47	3-2-6 ドーピングとその有害作用について説明できる
48	3-2-7 地域におけるスポーツファーマシストの役割と活動を説明できる
49	3-2-10 話題性のある薬物についてわかりやすく説明できる
50	3-2-11 日常生活における衛生管理の概念を説明できる

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

### CL LEVEL3

※「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「薬機法」と記載しています。

領域-一般目標-到達目標	到達目標(64項目)
51 3-2-12	日用品に含まれる化学物質の危険性を説明できる
52 4-1-3	医療安全に関する重要な情報を収集できる
53 4-1-4	医薬品がもつ危険性について、説明できる
54 4-3-2	医療過誤(事故)の発見時に必要部署に報告できる
55 4-4-2	ヒューマンエラーおよびメカニカルエラーが不可避であることを認識し、それぞれの危険性について列挙できる
56 4-4-4	「薬局・薬剤師のための調剤事故防止マニュアル」を理解し、説明できる
57 5-1-2	薬機法の重要な項目を説明できる
58 5-1-4	薬剤師法の重要な項目を説明できる
59 5-1-5	薬剤師に関連する法令の構成を説明できる
60 5-1-7	麻薬及び向精神薬取締法覚せい剤取締法等に基づき、適切な取り扱い・管理が実践できる
61 5-1-9	薬剤師の基本的責任を逸脱した場合の罰則法律を説明できる
62 5-1-10	医療法の重要項目を列挙できる
63 5-1-16	保険医療機関及び保険医療養担当規則を説明できる
64 5-1-17	保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則を説明できる

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

## CL LEVEL4

領域—般目標— 到達目標	到達目標(99項目)
1	1-1-7 医療に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる
2	1-1-10 薬剤師に係わる倫理的問題について討議できる
3	1-1-13 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議できる
4	1-1-14 環境に配慮する意義を考察し、討議できる
5	1-2-4 「対面話法例示集」に基づいて行動できる
6	1-2-6 薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他職種に助言などを求めるなどの処置ができる
7	1-2-7 医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携の重要性を討議できる
8	1-3-3 ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる
9	1-3-7 ターミナルケアにおける薬剤師の役割について説明できる
10	1-3-13 末期患者の精神的ケアについて説明できる
11	1-3-15 認知症のケアについて説明できる
12	1-3-17 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる
13	1-3-21 臨床心理学の必要性について説明できる
14	1-3-22 交流分析の必要性について説明できる
15	1-4-2 簡易的なカウンセリングスキルについて説明できる
16	2-1-7 当該医薬品および類縁化合物に関する臨床報告を収集できる
17	2-1-18 基本的な統計学を理解し、平均値と標準偏差の意味を説明できる
18	2-1-34 無菌操作と無菌製剤について説明できる
19	2-1-38 院内感染の標準的予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる
20	2-1-39 院内外および地域における感染事例の情報を医療スタッフに適切に説明できる
21	2-1-44 院内感染の感染経路別対策について説明できる
22	2-1-46 母集団薬物動態学の概念と応用について説明できる
23	2-2-5 不整脈の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
24	2-2-8 心不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
25	2-2-11 虚血性心疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
26	2-2-14 高血圧の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
27	2-2-18 消化性潰瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
28	2-2-21 炎症性腸疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
29	2-2-24 腸炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
30	2-2-27 肝炎・肝硬変の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
31	2-2-30 膵炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
32	2-2-34 腎不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
33	2-2-37 ネフローゼの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
34	2-2-42 喘息および肺気腫の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
35	2-2-46 脳下垂体に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
36	2-2-48 甲状腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
37	2-2-50 性腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
38	2-2-52 副腎に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
39	2-2-54 糖尿病とその合併症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
40	2-2-57 脂質代謝異常症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
41	2-2-60 高尿酸血症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
42	2-2-64 神経および筋に関する代表的な治療薬の作用機序を説明できる
43	2-2-66 脳血管疾患の代表的な治療薬の作用機序を説明できる
44	2-2-68 てんかんの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
45	2-2-72 統合失調症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
46	2-2-75 うつ病、躁うつ病の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

## CL LEVEL4

領域—般目標— 到達目標	到達目標(99項目)
47	2-2-92 アナフィラキシー・ショックの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
48	2-2-95 後天性免疫不全症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
49	2-2-101 薬剤耐性獲得の仕組みについて説明できる
50	2-2-105 臓器別悪性腫瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
51	2-2-110 経腸栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる
52	2-2-111 経腸栄養療法の管理と合併症について説明できる
53	2-2-112 静脈栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる
54	2-2-113 静脈栄養療法の管理と合併症について説明できる
55	2-2-114 在宅栄養療法について説明できる
56	2-2-115 褥瘡の治療法について説明できる
57	2-2-118 代表的な漢方方剤の構成とその作用を説明できる
58	2-2-119 EBMの基本概念と有用性について説明できる
59	2-2-124 経口投与薬物の吸収に影響を与える因子の作用機序について説明できる
60	2-2-125 薬物の脳移行性と脳血液関門の特徴を説明できる
61	2-2-127 薬物と血漿タンパク質との結合と薬効の関係について説明できる
62	2-2-128 薬物と血漿タンパク質との結合と薬物の組織移行性の関係について説明できる
63	2-2-129 薬物の代謝様式と主要な代謝酵素について説明できる
64	2-2-133 薬物の肝クリアランスについて説明できる
65	2-2-134 薬物の腎クリアランスについて説明できる
66	2-2-135 薬物の血中濃度推移と全身クリアランス、分布容積について説明できる
67	2-2-136 反復投与時の薬物血中濃度推移について説明できる
68	2-2-139 薬物の体内動態と作用発現に影響を与える遺伝的素因について説明できる
69	2-2-151 腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる
70	2-2-153 肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる
71	2-2-155 心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる
72	2-3-2 患者とのコミュニケーションを通して、栄養障害の兆候を見出せる
73	2-3-3 患者とのコミュニケーションを通して、不適切な薬理効果を見出せる
74	2-3-4 患者とのコミュニケーションを通して、副作用発現の兆候を見出せる
75	2-3-5 患者とのコミュニケーションを通して、薬物相互作用の兆候を見出せる
76	2-3-8 医療スタッフとの情報交換を通じ、重篤な副作用の初期症状を見出せる
77	2-3-10 医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発現の可能性を見出せる
78	2-3-11 医療スタッフとの情報交換を通じ、副作用を見出せる
79	2-3-13 医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用の可能性を見出せる
80	2-3-14 医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用を見出せる
81	2-3-16 心臓・血管系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
82	2-3-17 消化器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
83	2-3-18 腎臓・尿路系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
84	2-3-19 精神神経疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
85	2-3-20 代謝性疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
86	2-3-21 産科婦人科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
87	2-3-22 小児科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
88	2-3-23 老年科で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
89	2-3-24 外科・整形形成外科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
90	2-3-26 抗悪性腫瘍薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる
91	2-3-28 代表的な漢方薬・漢方製剤に関する副作用とその兆候を説明できる
92	2-3-33 相互作用および副作用の回避策を列挙できる
93	2-3-36 医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用に関する報告が行える
94	2-3-38 副作用および薬物相互作用の疑いのある事例について、公的機関への報告が行える
95	3-4-2 心肺停止状態を判断でき、自動体外式除細動器を適切に取り扱うことができる
96	3-4-3 災害時における薬剤師の役割について説明できる
97	4-1-5 過去に起こった医療過誤(事故)事例について、内容を説明できる
98	4-3-1 医療過誤(事故)発生時の対応の流れについて説明できる
99	5-1-20 調剤過誤発生時の法的責任について説明できる

# 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

## CL LEVEL5

領域-一般目標-到達目標	到達目標(119項目)
1	1-1-4 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案できる
2	1-1-15 自らの体験を通して、生命の尊さと医療のかかわりについて討議できる
3	1-1-16 救命救急に薬剤師が関わる意義を説明できる
4	1-1-17 死にかかわる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)について討議できる
5	1-1-18 予防、治療、延命、QOLについて説明できる
6	1-1-19 誕生にかかわる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる
7	1-1-20 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植、再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる
8	1-1-21 医療にかかわる諸問題から、自ら課題を見だし、それを解決する能力を醸成する
9	1-2-8 医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携を実践できる
10	1-2-9 他職種と連携を取り、協動的態度で役割を実践できる
11	1-2-11 相手の立場、文化、習慣が異なることを理解し、コミュニケーションのあり方に配慮できる
12	1-3-5 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できる
13	1-3-9 ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる
14	1-3-10 ホスピスなどの施設で薬剤師の役割を実践できる
15	1-3-12 疼痛緩和ケアについて実践できる
16	1-3-14 末期患者の精神的ケアについて実践できる
17	1-3-16 認知症のケアについて実践できる
18	1-3-18 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる
19	1-3-19 患者および家族の心理状態を把握し、配慮できる
20	1-3-20 患者やその家族のもつ価値観が多様であることを認識し、総合的に実践できる
21	1-3-23 家族力学について理解し、実践できる
22	1-4-4 患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握することができる
23	1-4-5 患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる
24	2-1-5 情報通信機器を活用した医療および医薬品情報を適切に収集できる
25	2-1-10 当該医薬品の費用対治療効果比を調べて説明できる
26	2-1-12 医療情報の信頼性やエビデンスレベルを検証できる
27	2-1-13 質の高い医療情報に基づいて適切な薬剤を提案できる
28	2-1-15 医薬品の臨床報告(英文)の内容を簡潔に説明できる
29	2-1-17 2つの変量の相関関係を定量的に説明できる
30	2-1-19 統計手法を用いる2つの平均値の有意差検定について詳しく説明できる
31	2-1-20 分散分析と多重比較について詳しく説明できる
32	2-1-21 正規分布を前提としない検定法について説明できる
33	2-1-22 添付文書やインタビューフォームの記載事項を、種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる
34	2-1-23 MRの提供情報を種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる
35	2-1-24 医薬品情報に対し、目的に応じた適切な取捨選択が行える
36	2-1-25 複数の学術資料を比較し、医薬品情報の信頼性や対立情報の有無を検証できる
37	2-1-26 体系的に収集・整理した医薬品情報の提供を、他の医療スタッフに対し適切に行える
38	2-1-27 体系的に収集・整理した医薬品情報を勉強会や学術集会で説明できる
39	2-1-31 直面する医薬品の調剤学的、製剤学的問題点について改善方法を提案できる
40	2-1-32 医薬品の調剤学的、製剤学的問題点の解決法を提案できる
41	2-1-33 直面する医薬品の生物薬剤学的、薬理学的問題点について改善方法を提案できる
42	2-1-35 無菌操作と無菌製剤を適切に行える
43	2-1-42 消毒対象に応じた適切な消毒薬の選択と消毒方法を提案できる
44	2-1-45 未知(未経験)の症例に対し、知識と経験と最新の医薬品情報に基づいて、具体的方策を提案できる
45	2-1-47 母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる
46	2-2-6 不整脈に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
47	2-2-9 心不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
48	2-2-12 虚血性心疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

### CL LEVEL5

領域-一般目標-到達目標	到達目標(119項目)
49	2-2-15 高血圧に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
50	2-2-19 消化性潰瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
51	2-2-22 炎症性腸疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
52	2-2-25 腸炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
53	2-2-28 肝炎・肝硬変に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
54	2-2-31 膵炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
55	2-2-35 腎不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
56	2-2-38 ネフローゼに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
57	2-2-43 喘息に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
58	2-2-55 糖尿病とその合併症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
59	2-2-58 脂質代謝異常症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
60	2-2-61 高尿酸血症と痛風に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
61	2-2-69 てんかんに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
62	2-2-73 統合失調症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
63	2-2-76 うつ病、躁うつ病に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
64	2-2-86 骨粗鬆症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
65	2-2-89 関節リウマチに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
66	2-2-93 アナフィラキシー・ショックに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
67	2-2-96 後天性免疫不全症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
68	2-2-106 臓器別悪性腫瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
69	2-2-108 代表的な抗悪性腫瘍薬の作用機序と臨床応用を詳しく説明できる
70	2-2-116 褥瘡の程度に応じて治療法を提案できる
71	2-2-132 薬物の初回通過効果の変動因子について詳しく説明できる
72	2-2-138 TDMのデータに基づいて適正な投与方法について提案できる
73	2-2-142 新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる
74	2-2-147 妊婦に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる
75	2-2-156 期待する効果が現れない、もしくは不十分である場合の対処法について提案できる
76	2-2-157 医薬品適正使用の観点から、未知(未経験)の症例に対する薬物使用に関する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる
77	2-3-9 医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の薬効に関する学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
78	2-3-12 医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
79	2-3-15 医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
80	2-3-32 不適切な処方について、適切な事例もしくは代替案を提案できる
81	2-3-34 相互作用および副作用の回避策を、過去の事例や資料、および患者の状態を勘案して提案できる
82	2-3-35 医薬品の有害作用について、患者の心情に配慮して説明できる。
83	2-3-37 医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用を適切に説明できる
84	2-3-39 相互作用と副作用の観点から、未知(未経験)の症例に対する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる
85	3-1-6 禁煙指導ができる
86	3-1-11 健康食品の最新情報を収集できる
87	3-1-12 病気の予防について適切に助言できる
88	3-1-14 顧客の要望を的確に把握し、必要とする情報を提供できる
89	3-1-15 医師への受診勧奨を適切に行うことができる

## 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別 CL LEVEL5

	領域-一般目標- 到達目標	到達目標(119項目)
90	3-2-3	学校薬剤師として活動できる
91	3-2-5	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を行うことができる
92	3-2-8	地域で麻薬や覚醒剤などの薬物乱用防止のための活動ができる
93	3-2-9	地域住民に対し医薬品の適正使用について啓発活動ができる
94	3-2-13	日用品に含まれる化学物質の危険性から回避するための方法を提案できる
95	3-2-14	誤飲や誤食による中毒に対して適切に助言できる
96	3-3-1	住民の家庭環境を把握し、適切に行動できる
97	3-3-2	居宅老人の介護状況を把握し、適切に対応できる
98	3-3-3	保健福祉活動の中で他職種と連携できる
99	3-4-4	災害発生時に適切な初期行動をとることができる
100	3-4-5	災害時に備えた適切な患者指導ができる
101	3-4-6	災害・緊急時に医薬品の供給と管理について指導できる
102	4-1-6	薬剤師が取り組む医療安全対策について、意義を理解し、要点を説明できる
103	4-2-2	医療過誤(事故)報告を分析し、その原因が解明できる
104	4-2-3	具体的な医療過誤(事故)防止対策が提案できる
105	4-2-4	実施中の医療過誤(事故)防止対策が評価できる
106	4-3-3	医療過誤(事故)発見時に適切に患者対応できる
107	4-3-4	医療過誤(事故)解決のため、適切に対処(行動)できる
108	4-3-5	メンタル面のフォローを含め医療過誤(事故)を起こした人に適切に対応できる
109	4-4-3	医療事故の起こりやすい因子について、詳しく説明できる
110	4-4-5	現場に即した医療事故防止のための業務手順書を作成できる
111	5-1-11	医療法の重要項目を説明できる
112	5-1-12	医師法の重要項目を列挙できる
113	5-1-13	医師法の重要項目について説明できる
114	5-1-14	健康保険法の重要項目を列挙できる
115	5-1-15	健康保険法の重要項目を説明できる
116	5-1-18	社会保障制度・医療保険制度を説明できる
117	5-1-19	介護保険法の重要項目について説明できる
118	5-1-21	処方せん偽造者及び薬剤師の間われる可能性がある責任について具体的法律を説明できる
119	5-1-22	薬事関連法規に基づき相談に対応できる